京都市北図書館だより

# むらさきのつうしん

第２１号

２０２２年7月発行

梅雨があっという間に終わって、暑い夏が今年も始まりました。
夏の予定はもう決まっていますか？日差しの中、外で活動するのもいいですが、涼しい部屋でゆったり読書というのは、いかがでしょう？

今回の北図書館職員オススメ本紹介のテーマは「コワイ本」です。

## 『震える教室』

近藤 史恵／著　（KADOKAWA　2018）

秋月真矢と相原花音は歴史ある鳳凰学園の普通科に入学してきました。そもそもこの学園はバレエ科とピアノ科が有名で、プロとして活躍している卒業生が多いのです。この二人が触れ合うと、見えてしまうのです。この世のものでないものが。最初、ピアノ教室の白い手が見えた時、信じたくなかった二人ですが、白い手の謎を解いていくうちに、その者たちの思いを受け止められるようになってきました。連作短編で次々と謎を解決していく二人のお話を怖がらず読んでみてください。

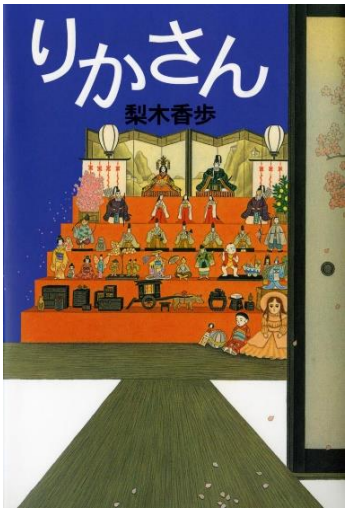
## 『怪談』

小泉 八雲／著，小林 与志／画，古谷 綱武
平井 呈一，黒沢 浩／解説（金の星社　1983）

耳なし芳一や雪女など、誰しもが知っているお話も、改めて読んでみるとぞぞっと背中が寒くなります。小泉八雲の『怪談』は日本各地に伝わる怪談や幽霊話が元になっています。もしかしたら、昔本当にあった出来事も……。ほか ろくろ首の話など、全 17 篇が収録されています。

## 『りかさん』

梨木 香歩／著　（偕成社　1999）




主人公のようこは、誕生日に何がほしいかと聞かれて、リカちゃん人形がいいと答えます。でも実際にもらったのは「りかさん」という名前の市松人形でした。しかもこの「りかさん」、ようこと話ができるのです。それからというもの、ようこの周りで不思議な出来事が起こり始めて――。ちょっぴり怖いけれど温かい、「りかさん」との不思議な物語です。

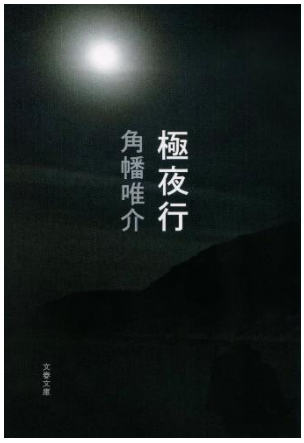
## 『旧怪談　耳袋より』

京極 夏彦／著　（ＫＡＤＯＫＡＷＡ　2007）

この本は江戸時代に奉行所で働いていた根岸鎮衛（ねぎしやすもり）という役人が聞き及んだことを書き留めた『耳袋』という本がもとになっています。現代語訳とアレンジによって読み易くなった数々の話は、どれも怖さと不思議な魅力にあふれています。読んで興味が出た人はもとになった『耳袋』も読んでみると面白いかもしれません。

## 『極夜行』

角幡 唯介／著　（文藝春秋　2018）




地図にない幻の川を発見したり、雪男を探しに行ったり、この作者は「職業・冒険家」。の冒険に選んだのは、太陽が昇らない冬の北極を、一頭の犬とだけに歩いて踏破すること。太陽の光が無いことや、雪嵐や、食料の不足や、道迷いなどなど、「怖い」要素は多々あれど、一番怖いのは「孤独」だと思いました…。

## 『食品の裏側[1]～みんな大好きな食品添加物～』

安部 司／著,（東洋経済新報社　2005）

何を隠そう！この著者はもともと“食品添加物”をバンバン作っていました。でもある日、自分の作った添加物だらけのミートボールを、可愛い孫が美味しそうに食べている姿を目の前で見て、「オレは何をやっているんだ！！」と気づき、なんと翌日に辞表を出されたそうです。その後、安部さんは、逆の立場、「“食品添加物”というものがどれだけ身体に悪くコワイものか」を説明してまわる側にまわり、この本を出版されたとか。皆さん、最近イライラしていませんか？それは、添加物のせいもあるかも…？しれません。

## 『変身』

フランツ・カフカ／著　（新潮社　2011）

ある朝、突然巨大な虫に変身してしまったグレゴールとその家族の物語。訳も分からず虫の姿になり、元の姿に戻る糸口すらないグレゴールの絶望と恐怖もさることながら、彼に対する家族の対応の変化にまた別の怖さを感じました。

## 『かいじゅうたちはこうやってピンチをのりきった』

新井 洋行／著，森野 百合子／監修

（パイインターナショナル　2021）

みなさんにはこわいことがありますか？人によってこわいと思うものは違い、注射、くらやみ、仲間はずれ…さまざまなこわいことがあふれています。絵本に出てくる彼らはかいじゅうでそれぞれこわいものがあります。そして彼らなりにピンチを乗り切ってきました。そんな不安や恐怖と共存する方法を、こわがりかいじゅうたちと一緒に考える絵本です。

## 『漁師とおかみさん　グリム兄弟の童話から』

カトリーン・ブラント／著　藤本 朝巳／訳

（平凡社　2004）

この話はグリム童話のお話のひとつです。童話というと小さい子が読むもの、というイメージの人もいるかと思いますが、大きくなってから読んでも怖いものがあるんです。タイトルにある漁師のおかみさんの底を知らない強欲さもさることながら、どんな願いもことごとくなげにかなえてしまう自称ヒラメに姿を変えられた王子の淡々とした振る舞いがとても怖いと感じました。

## 『ズーム』

イシュトバン・バンニャイ/著

（ブッキング　2005）

字の無い本です。ZOOM とは、うんと近づくか（ZOOM　IN)、うんと離れること（ZOOM　OUT)。一番最後のページがまさしくズームアウト。真っ黒の中にぽつんとひとつの白い点。実はここに、世界の全てがつまっているのです。あなたも、あなたの家も、あなたの学校も。そのことを想像すると、ふうっと体がなくなるみたいな怖さに襲われます。

## おわりに

いかがでしたでしょう。今回はおすすめのコワイ本を紹介してきました。気になる本はありましたか？本の紹介の中にもありましたがコワイと感じるもの・ことは人の数だけあります。それは幽霊であったり、孤独であったり、食品添加物であったり。そして、そこから得られるものも「コワイ」の数だけあります。自分ではそう思わなくても、誰かがコワイと思うものに触れてみると今まで知らなかった新しい世界に出会えるかもしれません。

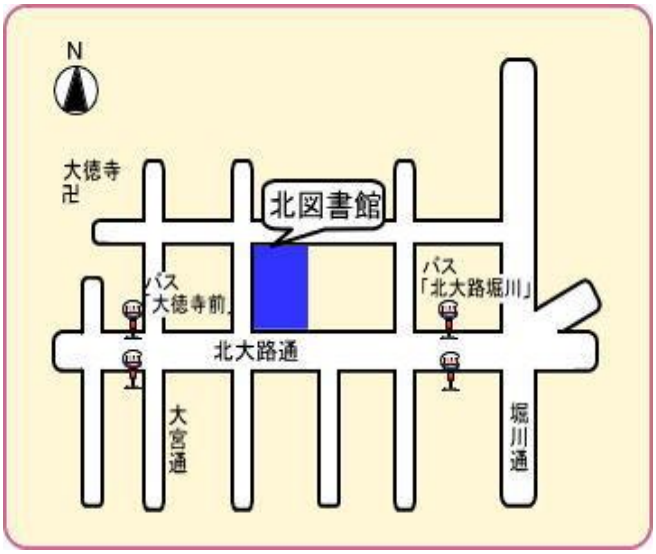
この夏は、いろいろな「コワイ」に出会う夏にしてみてはどうでしょうか？

あなたがこわいものは、なんですか？

## 京都市北図書館

〒603-8214
京都市北区紫野雲林院町 44-1
TEL　075-492-8810
開館時間　平日 9:30～19:00
土日祝 9:30～17:00
休館日　毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
URL　https://www2.kyotocitylib.jp/

**※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，開館時間が異なる場合がありますので，ご注意ください。くわしくは，ホームページをご確認ください。**




★京都市図書館で本を借りるときは図書館カードが必要です。カードの発行には，住所，氏名を確認できるものが必要です。